

らうんじ・茶王樹・南九十九里から

2012年1月～6月

+++++ 20120629

「再稼働ハantai」の首相官邸前での抗議デモ

29日・金曜日の6時～8時、首相官邸前での「原発再稼働反対」の抗議デモは10万人規模が予告されていました。先週の22日の活動をメディアは報じなかったのですが、ツイッターやフェイスブックで4万5000人が集まったと報告されていたからです。

わたしが地下鉄・国会議事堂前駅でおりに出たのがちょうど6時。街頭はすでに騒然とした雰囲気になっていて、「再稼働ハantai」のシュプレヒコールは、広い道路をはさんで舗道を埋めた人びとから途切れなくあがっていました。「立ち止まらないように」という警察官の音がしばらく重なっていましたが、舗道からあふれた参加者がほどなく車道を埋め尽くすことになりました。

主催団体の誘導はありましたが、参加者はほとんどが個人参加か仲間同士といった人たちで、ノボリもプラカードも気ままな手製のものでした。半月が空にかかり、今回はヘリも旋回して取材にあたっていました。かつて60年安保で、国会を包囲して南通用門内に入り、6・15を主導したのは学生たちでしたが、学生のグループは目立たず、全学連の赤い旗に違和感があるほどに自立した市民が集まっています。ここに「消費税増税ハantai」の人びとが加われば、国民の直接の声によって「野田内閣」は倒せるかもしれないのです。7月6日・金曜日の姿はだれにも見定めがつかないのです。(翌日の新聞は「大きな音だね」といったという野田首相のつぶやきを伝えていましたが)

+++++ 20120627

岡本憲之氏のセミナー(NPO・LBC主催)に参加

日本生涯現役推進協議会(LBC=ライフ・ベンチャー・クラブ)主催の「第318回ライフ・ベンチャー・生涯現役塾」(6月27日:6時～9時・八重洲口会館)に参加する機会をえた。「生涯現役」を商標登録にもつ高齢社会推進活動の生え抜き団体のひとつである当協議会を主宰してきた東瀧邦次氏からお誘いを受けてのもの。当夜の出席会員は、みなさんそれぞれの活動分野と経緯をもつお歴々である。岡本氏はみずからの経歴をたどりながら「梯子」(目標)をかけつづける人生を語ったが、東京大学でシステム工学を選んだこと、三菱総研の創成期に参加しての活動、地球環境研究センターを創設して「地球サミット」への参加など、時代の大きな風を読み取りながら、官民協働での事業を構成しながら、民間営利企業の立場をしっかりと確立してきた。得がたい創成型の人である。日本シンクタンクアカデミーを設立して、資源エネルギー(これも梯子だが)とともに「日本高齢社会」を「生涯にわたる梯子」として活動を広げている。

当夜は「柏市」で進行中である市・UR・東大(高齢社会総合研究機構)による「高齢者がいきいきと暮らす街」をめざす豊四季台の「モデルプロジェクト」の報告をしていたが、当日の参加者の関心をひいたのは、無償ボランティア(地域・社会貢献活動)から競争的労働市場(ビジネス・公務的活動)を左右の

極とする「高齢者の活躍領域」を分析した図で、それぞれにみずからの活動形態と活動領域をあてはめて納得していたようである。

+++++ 20120610

NHK日曜討論「経済活性化」の底力に「元気な高齢者」が登場

NHK日曜討論スペシャル「消費増税と一体改革」の議論のなかで、経済の活性化をすすめる底力として「元気な高齢者」がはじめて登場した。「たちあがれ日本」の藤井孝男議員が経済成長をどう実現していくかで取り上げたもの。他党の出演者があいかわらず高齢者は年金・介護・医療の対象としてしか見ていないなかで、「元気な高齢者」の存在にふれたことは画期的な発言なのである。それは「たちあがれ日本」には具体的で総合的な「高齢社会」設計があることを推測させるからである。

藤井さんは、経済活性化への具体的提案を問われて、まずは財政出動によって老朽化したインフラ整備をおこなうこと、そして世界に例をみない高齢化社会なのだから、高齢者のみなさんが自立した環境をつくること、元気な高齢者が働くこと自立することによって、税金にもつながるし雇用の機会を増やすことにもなるという新たな可能性を指摘した。しかし司会者には藤井発言の意味合いがわからず、議論は先にすまなかった。藤井さんは高齢者・現役世代・将来世代という三世代の存在と負担配分のバランスの必要にも触れていたし、社会保障・税一体改革の必要は認めながらも、社会保障については1年ほどかけて議論して結論を出すべきであると提案していた。

+++++ 20120609

人生2回時代をどう生きるか

「月刊文風」6月号に、JTTA(日本シンクタンク・アカデミー)の岡本憲之理事長に「人生2回時代におけるキャリア形成の標準モデル」を寄稿していただいた。「平均寿命65歳」時代には高齢者は余生や老後を送りながら介護や医療を要する虚弱者のイメージがあった。しかしいまや「平均寿命90歳」の時代。高齢化によって得た25年をたんに高齢期を引き延ばすだけの人生では充実したものにはならない。「2回目の人生」として対処すべきであると岡本さんは提言する。そのために必要な新たなキャリアをどう形成するかについて、本稿でわかりやすい標準モデルを示している。「高齢社会についての総合的な知識の普及を目指す」というお立場からの発想による提案に今後とも期待していきたい。

+++++ 20120606

NHK日曜討論(6月10日)への意見応募

NHK日曜討論(6月10日)「あなたは”消費増税”をどう考えますか」への意見応募をしました。

▼いま政治家に言いたいこと 国の財源安定のためには「増税」「歳出削減」「経済成長」の三要件を同時に議論する必要があります。「社会保障・税一体改革」(税改革)とともに「経済成長」による増収が見込める「日本長寿社会(≧高齢社会)」構想を論じるべきです。焦点を絞れば「高齢社会政策」ですが、「高齢社会対策担当大臣」がだれかを知らず、「高齢社会対策大綱」の10年ぶりの見直し論議の推移

を知らない議員(番組の中で出演者に聞いてほしい。NHK解説委員もご存じないかも)が、「社会保障」を論じる違和感を覚えます。3000万人に達した高齢者(65歳以上)のうち7~8割の「支える高齢者」(長命の父母を支え、子どものローンを支え、孫の物品を支える)層の実態をみず、保持している知識・技術・資産の参加をもとめない「増税」論議では、当事者である高齢者として何のメッセージも感じないし、支持のしようもないのです。

+++++ 20120604

高齢者のまち「アリゾナ・SUNCITY」のこと

昨日、ヒューマンマネジメント研究所の又村紘所長にお会いした。

又村氏の関心事は「人間の可能性」ともいうべきもので、それを理論ではなく、具体的な「かたち」で可能にしようというところにある、と、わたしは理解している。話しているうちに、わたしは周回遅れていることに気づく。

たとえば、海のプランクトンと人間の血液中のミトコンドリアが途方もない年月を経て出会ったところに、人間の免疫細胞を活性化する可能性をみる。外科治療では不可能な難病治癒の可能性をみる。

身近かなところでは、日本人のボディ・アクションとくに手や指や表情による表現力の欠落をみる。あるいはムダな動きをみる。語りは達者でも、TVによく出る人びとの手の動きや表情に、自己表現意識の欠落をみる。そんなことは学校のどこでも教わった記憶がない。又村さんから教わる以外にない。

「高齢社会」のことではアメリカの「高齢者が暮らすまち(アクティブ・アダルト・コミュニティ)」に可能性をみる。55+あるいは60+の元気な人びとが暮らすまち。アリゾナの「SUNCITY」を例にあげた。日本でも先駆的な試みがあるが、関心のひろがりはみえていない。

又村氏が紹介してくれた、「SUNCITY」ほかのようすをみてみたい。

<http://www.youtube.com/watch?v=PXSQ8zXUrc&feature=related>

<http://www.youtube.com/watch?v=SNOchNEB2U&feature=related>

<http://www.lifeafter50.com/news/2012/jan/01/100-plus-how-coming-age-longevity-will-change-ever/>

+++++ 20120601

「人間」は「このよ」とルビを振るべし

京都左京におられる竹内実先生から本とお手紙をいただいた。本は『中国文化読本』(日文版・外語教学与研究出版社)で、竹内先生が「日文審訂・監訳」に当たっておられる。古代から現代までの中国文化の特色を、内在する情緒(生活態度や美的感性)それも可能なかぎり庶民の精神世界を重要視してとらえようとしている。古代から現代まで残された、文字(書)や易や詩や孔子のことばも、酒や音楽や囲碁や絵や器も、建築や庭や旅も、すべて中国大地に生きる人びとの「純粹で優雅な内在世界」を示しているという。この視点は豊富な挿絵とともに貫かれている。お手紙には、近代以前の本文の「人

間」には近代以後の「にんげん」と理解されないために、必ず「このよ」とルビを振るのがよいと、わたし
が書いたものの中で気づかれて書き添えていただいた。先生はたしか米寿である。

+++++ 20120522

東京スカイツリーが正式オープン

東京下町(墨田区)に建設されていた東京スカイツリーが正式オープンした。634(ムサシ)mの世界一
の電波塔。中国名は天空樹だそうである。ふたつの展望台(天望デッキ・天望回廊)からの景観や夜の
ライトアップも話題になっている。21日が金環食で、23日はスカイツリーと、日本中が空中に関心をも
って見上げているうちに、地上や地中でなにかが動いたりずれたりしたのではないかと心配になったく
らいである。東京スカイツリーとはうまいネーミングである。会社員の中澤歩さんが通勤の電車の中で
思いついたものという。公募から6点にしぼられて、一般投票の結果決まったというが、決め方も納得
である。

遠く近くから眺めることは度々あるだろうが、さて、上ることがあるかどうか。

+++++ 20120515

web版「月刊丈風」5月号を発行

web版「月刊丈風」5月号 <http://jojin.jp/472> を発刊した。

ご覧いただけるとすぐわかりいただけるが、新情報としての「”消費増税”論議とともに”日本長寿社
会”構想を！」と「まったなし”日本長寿社会”への展開」のカレント情報をはじめ、これまでに蓄積して
きた「現代シニア用語事典」「人生を豊かにする四字熟語」「昭和シニア人名録」「日本地域大学校名
簿」「高齢者(60歳以上)生年別人口・流行歌・流行語」などを資料として公開した。

一介のジャーナリストとして、ひとり立つ覚悟ではあるが、すぐれた人びとの参加を得て「日本長寿社会
≧高齢社会」達成へのひとつの拠点として、充実させていかねばならない。

編集人を「堀亜起良」としたのは、ふたつの課題「国際的モデル日本高齢社会」と「平和なアジアの世
紀」を”崛起”する覚悟を宣言したかったからである。

少数の知人に送ってご意見を聞いた。6月号から本格化する。

+++++ 20120426

民主党小沢一郎元代表に無罪判決

陸山会の土地取引をめぐる政治資金規正法違反で起訴された小沢元代表に無罪判決がでた。「消費
増税」法案のゆくえへの影響がいわれるが、小沢氏の復権が意味するところは、「官僚主導から国民
主導へ」という民主党勝利の原点への回帰と地方再生への政策の新展開にある。野田首相は「国民
主導から官僚主導へ」とウターンしてしまい、自民党の政策へ歩一歩近づいてゆくことで政権の延命を
はかっているようにしか国民からはみえない。野田さんにはそれしか方法がないからである。野田・谷

垣両首脳の間裏をあわせたような「増税」先行型の国会論議に、国民は関心を示さないし、支持もしないだろう。小沢元代表の復権への期待は、「国民主導へ」の転回にあるのである。

+++++ 20120315

「たちあがれ日本」平沼代表から

「まったなし日本長寿社会への展開」の送付にうれしいトップのご返事は、「たちあがれ日本」の平沼赳夫代表からでした。

◎ 3/8 12:12 mail 便で、小論「まったなし日本長寿社会への展開」をお送りしたところ、折り返し平沼赳夫さんからご返事をいただきました。

◎ 3/9 13:03 mail 便で、[メール有難う御座いました。玉稿「まったなし日本長寿社会への展開」を拝見し、感銘を受けました。事務所へご激励にお出で下さり、心より御礼を申し上げます。有難うご座いました。衆議院議員 平沼赳夫]

・上の小論の「政治基盤が揺れている」の中で、日本(地域)再生の力は高齢者ひとりひとりが保持している知識、技術、資産の社会参加による「平成掘起」にあるというあたりは、平沼さんの年来のご主張に重なるところです。

◎ 3/13 17:15 mail 便で、[春めいてきました。3月11日をしめやかに迎えて過ごして。一介のジャーナリストとしての警醒の小論「日本長寿社会への展開」にこめた思いをご理解いただきありがとうございます。] というお礼のあいさつをいたしましたところ、

◎3/15 13:13 mail 便で、[メール有難うご座いました。ご返信を頂き、御礼申し上げます。日本長寿社会への展開につき、党でも真剣に検討させていただきます。衆議院議員 平沼赳夫]

といういねいなご返事をいただきました。

具体化を期待いたします。

+++++ 20120313

「平成維新」か「平成掘起」か

「増税」を先行して論議する国政、決められない国政、国民はうんざりし期待しなくなりました。が、将来の暮らしへの不安はつものばかり。国がダメでも地域があるという思い・願いを感じて、地方の首長・議員に勢いがあります。

時流に乗って「平成維新」(橋下徹氏など)が中心のひとつになり、若手による新しい時代を主張していますが、本流(潮流)は、3000万人のアクティブ・シニア「支える高齢者」が中心になって地域の特性を掘り起こし再生する「地域再生・平成掘起」なのです。

+++++ 20120303

「まったなし日本長寿社会への展開」を送りはじめる

1月はじめからまとめていた「まったなし日本長寿社会への展開」(10500字・A42段・9ページ)を送りはじめ。この国の「長寿社会」のグランドデザインを担う立場にある政治家、学者、ジャーナリスト、官僚の人びとに。

一介のジャーナリストの「警世の声」にどんな反応が得られるか。「知者は未萌にみる」という先人の声に励まされて、10年来の懸案、「日本長寿社会 \geq 高齢社会」(三世代同等多層型社会)の実現へののはじまりです。

+++++ 20120302

「成田生涯大学院」セミナー

「成田生涯大学院」での平成24年度セミナーの依頼を教育委員会の太田さんから受ける。

ことは「丈人のススメ」と「四字熟語」の2×2教室を引き受ける。各自治体で生涯学習(生きがいづくり)は盛んだが、まちづくりに資する人材養成を担う「地域大学校」は多くはない。兵庫県にいまい野学園がモデルだが、それぞれに地域性を活かしながらカリキュラムをつくっている。大学校の有無はいずれは「特性あるまちづくり」の差とまるだろう。

担当の長田正友さんの学院構想がいいし、成田の教室は楽しいし、ウナギはうまいし…。

+++++ 20120301

「まったなし日本長寿社会への展開」をまとめる

1月12日の高連協「高齢社会対策大綱見直し」での提言以来、2カ月をかけて「まったなし日本長寿社会への展開」<http://jojin.jp/429>をまとめた。10500字・A42段9ページの小論である。

この小論を、まずは政治家、官僚、学者、報道関係者に送らねばならない。10年の「失政」を明らかにすること。そのあと全国の活動者のみなさんに送って、典拠にしてもらえれば、各地に拠点(居場所)としてたくさん「水玉模様の会」をつくることできるはず。

+++++ 20120209

「百齡眉寿」は長寿時代の合言葉

「百齡」は 百歳のこと。

大正元年(一九 一二)生まれの人が ちょうど百歳である。

わが国では百歳以上の人が 五万人を超えてなお増えつづけており、

いかに史上稀な長寿国であるかが知られる。

杜甫の詩から「人生七十古来希なり」といわれ、七〇歳が 長寿の証とされてきた。

とすれば百歳ははるか遠い願望だったろう。

「眉寿」は長寿のこと。老齢になると白い長毛の眉(眉雪)が生えて特徴となる。

同じ唐の書家虞世南は「願うこと百齡眉寿」(琵琶賦)と記して百歳を願ったが、

八〇歳を天寿として去った。「七十古希」の杜甫は五九歳だったから、

長寿への願望は遠くに置いたほうがいい。

昨年10月4日には聖路加国際病院の日野原重明理事長が、ことしは映画監督の新藤兼人さんが4月22日に百寿に達する。

+++++ 20120112

高齢社会対策大綱に関する二つの会

2012年の年明けの1月12日に、霞が関で「高齢社会対策大綱」見直しに関する二つの会が開かれた。

ひとつは内閣府の「大綱を見直す有識者検討会」である。清家篤慶応大塾長を座長とする第3回の会合で、委員は香山リカ、関ふ佐子、園田真理子さんの三人の大学研究者、団塊世代の漫画家弘兼憲史さん、前高浜市長の森貞述さん、それに前回の見直しにも座長をつとめた清家さんがいるとはいえ六人の委員。オブザーバーは厚労省、文科省、国交省の課長・参事官。団塊世代の加入で大きな変化が見込まれる今後の高齢社会を論議するにはあまりに小ぶりの陣容である。報告書素案の検討であり、報告書成案そして大綱本文の確定を見守らねばならない。

もうひとつは、内閣府にほど近い憲政記念館会議室で開かれた、高連協(高齢社会NGO連携協議会、樋口恵子・堀田力代表)による「高齢社会対策大綱の見直し」に当たっての「高連協提言」の発表会である。「高連協提言」はこう提言している。

普遍的長寿社会は人類恒久の願望であり、高齢化最先行国として世界に示す施策とすべきこと、高齢者は能力を発揮して社会を活性化し充実感を持って生きること、就労の場の年齢差別の禁止、基礎自治体との協働、少子化社会対策、より良い社会を次世代に引き継ぐこと…。将来像としては、世代間の平等、持続可能性等の観点から「釣鐘型社会」を想定している。

吉田成良氏の主宰する案文の起草の会にわたしも参加する機会を得たが、当日の発表の場に報道関係者の姿が少なくて(朝日のみ)、ニュースとしての関心の低さが気になった。

*

**

天をも摩する

・茶王樹・の下で

高年期人生のひとつときを

お好みの場所の椅子に腰を据えて

*ゆっくりとおくつろぎください。

* 鳥たちのさえずりを聞き、

聞くともなく 仲間の声に耳を傾け、

ときに談論に 加わる。

さまざまなお茶の味わいをたのしみながら、

高年期の暮らしを支える愛用品 や新しい製品のこと、
地域・職域でのすぐれた活動の さまざまありようなど

● 高年期の人生と高年化社会の成果に関して語り合う ●
長寿であることの日々が安心であり、明日に生きがいを感じ、
後人には「みずからがその木陰に憩うことのない樹を植える」。

共有して愉快なご意見・有用なご提案をぜひどうぞ。

らうんじ・茶王樹・南九十九里から

樹下丈人・堀内 正範

+++++